

【指導者向け】川遊びの安全管理（セーフティトーク資料）

2025.7 国立曽爾青少年自然の家

自然の川は美しいですが、管理されたプールとは違い、日々状況が変わっています。安心安全に行っていただくために以下の点を必ずご確認ください。

1. 実施判断について

【活動開始直前に以下に一つでも該当する場合は実施不可】

- ・気温 22℃未満
- ・水温 18℃未満
- ・水深 膝（約 50cm）以上
- ・水質 濁っている
- ・降水量 3mm/時以上
- ・雷 自然の家周辺で雷が鳴っている場合
- ・警報 大雨、洪水、暴風警報が発令されている
- ・雷注意報が発令され、気象庁「雷ナウキャスト」で活動度が2以上の場合
- ・WBGT（暑さ指数）31 以上の場合

【直ちに活動を中止し、帰所する】

- ・気象が急変し（上記実施判断基準）、活動の実施が困難となる場合（自然の家から連絡）

☐ 確認しました

2. 持ち物

・参加者

川遊びの服装（ライフジャケット(貸出も可)、水着、ラッシュガード等長袖、運動靴またはかかとが固定できるウォーターシューズ、帽子)、十分な水分（スポーツ飲料等塩分を含むものが望ましい）、着替え、タオル、救急用品

・指導者

救急用品セット（体温計、経口補水液、虫よけスプレー、虫刺され軟膏を含む）、緊急連絡用携帯電話

・自然の家から貸出

ライフジャケット、無線機、スローバッグ、遊泳範囲指示ロープ、救命浮き輪、保温用毛布、ホイッスル、メガホン、WBGT 測定器、水槽、箱眼鏡、たもヘルメット（希望者のみ）

☐ 確認しました

3. 事前準備（指導者）

- ・指導者は、事前に活動場所の下見を行い、職員からセーフティトークを受ける。
- ・参加者の体調を把握し、参加者、待機者（引率者を含む）を決定する。
- ・川遊び実施届（別紙）を活動開始前に提出する。

☐ 確認しました

4. 当日の流れ

①活動可否の決定

活動開始 1 時間前に事務室で団体代表者と打ち合わせを行い決定する。

②物品の借用

活動開始時刻（午前は 9 時半以降、午後は 13 時以降）にゆうやけ広場に集合し、ライフジャケット等の借用を受け、使用方法や危険物・場所等の説明を受ける。なお、ライフジャケットにはサイズがあるので、使用する参加者全員が集合する。

③活動場所への移動

川遊び場まで片道徒歩で 50 分程度、バスは 15 分程度

別紙 1 の地図を参考に移動する。（駐車できる場所が限られており、緊急車両のみ駐車が可能。）

④活動場所到着後

・引率者（指導者）

別紙 2 の遊泳可能エリアを確認し（子どものひざ下を目安）、指導者を配置（陸上監視員 1 名、救命浮き輪係 1 名、救命ロープ係 2 名（1 名は最下流））する。陸上監視員、最下流救命ロープ係は必須とする。

入水する前に、活動場所の確認、遊び方、指導者の配置を確認し、参加者に伝える。

・参加者

準備運動を行い、活動範囲、人数確認の方法（バディシステム）、遊び方のルールを理解する。

⑤活動中

熱中症（低体温症）予防のため、30 分に一度は一斉に水から上がり休憩（水分補給、健康観察）を行い、気分が悪くなった場合は、適切に対応し入水しないようにする。なお、休憩時、活動終了時に人数確認（バディシステム）を実施する。

なお、飛び込み、投石等は禁止する。岩のぬめり等の自然物にも注意する。

⑥活動終了後

自然の家に帰所後、ゆうやけ広場の水栓を用いて借用物品の洗浄、返却を、職員の指示のもとに行う。なお、天候に関わらず川遊び直後の入浴はできない。通常時間の入浴となる。

☐ 確認しました

5. 緊急時対応について

①団体の引率責任者は、現場の状況を冷静に判断し、人命救助を第一に考え、活動の中止も含めた的確な判断を行う。緊急を要する場合は、119 番通報し、救助要請を行う。

②引率責任者から無線機により事務室へ連絡し、事務室の指示に従う。

③引率責任者は、負傷者等の救助を行うとともに、負傷者以外の参加者に活動を中止し、安全な場所へ避難するよう誘導する。

☐ 確認しました

上記内容について、全て確認しました。学校・団体の引率者全員で共有します。

団体名()

確認者()

説明職員()